

(様式 3 - 2)

兵庫県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要

別紙参照

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

(1) 高等学校における現状と課題

平成30年度の「求められる英語力を有する英語教員の割合」は文部科学省目標に到達したが、「求められる英語力を有する生徒の割合」は依然として文部科学省目標に届いていない。また、CAN-DO リストの普及率は平成28年度以降、県立高校で100%となっているが、公表や効果的な活用を更に促す必要がある。これらの状況を踏まえ、引き続き、次の3点（生徒の意欲を高める授業づくり、4技能を総合的に育成する取組、教員の英語力・指導力の向上）について重点的に取り組み、更なる英語教育の推進を目指す。

【H30年度主な目標達成状況】

指 標	H29 (実績)	H30 (目標)	H30 (実績)	指 標	H29 (実績)	H30 (目標)	H30 (実績)
CEFR A2 レベル相当以上生徒の割合	45.1	50.0%	48.5%	CEFR B2 レベル相当以上教員の割合	66.7%	75.0%	77.6%
生徒の言語活動授業の50%以上	83.4%	100.0%	90.2%	教員の英語発話授業の50%以上	83.2%	100.0%	86.9%

調査対象となる授業は「コミュニケーション英語」

【H31年度改善方策及び目標】

重点取組項目	改善方策	目標となる指標
生徒の意欲を高める授業づくり	ALT (132人) を全校配置 ・チーム・ティーチングによる授業の充実 ・英語以外の授業での活用の推進 ・海外の高校との共同研究の実施 学習到達目標を生かした授業 ・兵庫版基本 CAN-DO リストの活用	求められる英語力を有する生徒 (H30 48.5% H31 50.0%) 生徒の英語による言語活動時間 (H30 90.2% H31 100.0%) パフォーマンスの実施(1科目平均) ・スピーキング(H30 2.9回 H31 3.0回) ・ライティング(H30 1.7回 H31 2.0回)
4技能を総合的に育成する取組	・各校毎の CAN-DO リストの改善・公表・達成状況の把握等、効果的な活用 グローバル・リーダ育成事業の実施 ・国内で2泊3日の英語合宿 ・高校生50人、ALT20人 国際交流事業 ・姉妹州省との相互交流の実施 各種コンテストの実施 ・スピーチ、イッセイ、ディベートコンテストの実施(高英研と連携)	イングリッシュ・キャンプの実施 (H30 20校 H31 25校) 海外の高校との協働学習の実施 (H30 21校 H31 25校) CAN-DO リストを公表している学校 (H30 76.3% H31 100.0%) CAN-DO リストの達成状況を把握している学校 (H30 47.5% H31 50.0%)
教員の英語力、指導力の向上	教員の海外派遣 全ての英語担当教員対象の外部 検定試験活用研修 日本人教員を交えた ALT 研修等の 実施	教員の英語力の向上 (H30 77.6% H31 90.0%) 教員の英語使用率の向上 (H30 86.9% H31 100.0%)

(2) 中学校における現状と課題

平成30年度の「求められる英語力を有する英語教員及び生徒の割合」は、調査開始時から比較すると、10%以上増加しているが、依然として文部科学省目標に近づいていない。生徒の英語力向上に関しては、授業改善により、学習した語彙や表現等を実際に活用する活動（アウトプット）の充実が求められる。また、「授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合（50%以上の割合）」及び「英語担当教員の授業における英語使用状況（50%以上の割合）」についても、全国平均を約10%下回っており、言語活動の実施に課題が見られ、言語活動を中心とした授業への改善を促す必要がある。

【H30年度主な目標達成状況】

指 標	H29 (実績)	H30 (目標)	H30 (実績)	指 標	H29 (実績)	H30 (目標)	H30 (実績)
CEFR A1 以上 生徒の割合	36.4%	50.0%	40.8%	CEFR B2 以上 教員の割合	31.2%	50%	34.3%
生徒の言語活動 授業の50%以上	63.6%	65.0%	66.6%	教員の英語発話 授業の50%以上	55.5%	100%	64.1%

【参考】CEFR A1 以上の生徒の割合の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
兵庫県	29.2%	30.6%	33.8%	32.0%	36.4%	40.8%
国	32.2%	34.6%	36.6%	36.1%	40.7%	42.6%

【H31年度改善方策及び目標】

これらの状況を踏まえ、次の2点（教員の指導力向上、教員の英語力の向上）について重点的に取り組み、更なる英語教育の推進を目指す。

教員の指導力向上について

ア 改善方策

指導者養成研修の実施

外部連携研修受講者を講師とした研修の実施

英語科の授業改善少人数グループ実践研修の実施

- ・英語調査等を踏まえた授業改善ポイントの整理

- ・即興的なコミュニケーションを図る力を育むための言語活動の充実

イ 目標となる指標

項目	現状	2019	2020	2021	2022
求められる英語力を有する生徒	40.8%	42.0%	45.0%	47.0%	50.0%
生徒の英語による言語活動時間 (50%以上の割合)	66.6%	80.0%	90.0%	95.0%	100%

教員の英語力の向上について

ア 改善方策

推進リーダー研修によるリーダー養成（H27～H31）

- ・授業を英語で行う等、教員の英語使用率を高める

日本人教員を交えたALT研修等の実施

外部検定割引制度の活用等についての周知

イ 目標となる指標

項目	現状	2019	2020	2021	2022
教員の英語力の向上	34.3%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
教員の英語使用率の向上 (50%以上の割合)	64.1%	80.0%	90.0%	95.0%	100%

(3) 小学校における平成30年度の現状と課題

兵庫教育大学と連携し、研修テーマの設定を行い、「小中合同研修」、「ITを活用した授業実践」、「ICTを活用した授業実践」等の内容で研修会を実施した。本研修において、平成26年度から約200名の推進リーダーを育成し、教員の指導力向上を図ってきたが、約75%（約1,800人）の学級担任が5・6年生の外国語活動を担当している現状からも、引き続き、教員の指導力向上のための研修の実施が求められる。

【H31年度改善方策】

今後も、英語教育推進リーダーを活用した研修や本年度作成した「外国語教育指導用映像資料」等を活用し、教員の指導力の向上を図るとともに、新学習指導要領を踏まえた研修内容の充実に努め、教科化に向けてのさらなる対応を進めていく。

教員の指導力向上について

【改善方策】

- 研修協力校による効果的な指導方法の研究・成果の普及
 - ・新学習指導要領に基づく指導方法の工夫
 - ・学びの接続を意識した小・中連携
 - ・「小学校外国語教育指導用映像資料」を活用した効果的な研修
 - ・ICTを活用した授業改善の在り方
- 外部連携研修受講者を講師とした研修の実施

教員の英語力の向上について

【改善方策】

- 研修協力校による教員の英語力向上に向けた研修の実施
 - ・外部検定試験受験に向けた研修
 - ・英語力向上に向けた研修方法等の普及

(3) 研修の体系と内容の具体

1 実施研修

(1) 研修協力校による公開授業等の実施

趣 旨

英語教育推進リーダー等を中心とし、各地域の小・中学校教員を対象に公開授業や研究協議会を実施することにより、県内全域に研修成果の普及を図る。

研修協力校

県内6校（各教育事務所1小学校）

対象者

研修協力校（6校）のある各地域の小・中学校外国語及び英語担当教員

1校 1回あたり 40名程度

実施回数

12回程度（1校 年間2回程度）

主な実施内容

- ・公開授業、研究授業
- ・言語活動を中心とした効果的な指導方法の研修会
- ・「小学校外国語教育指導用映像資料」を活用した効果的な校内研修の在り方について
- ・教員の英語力向上に向けた研修の在り方について

(2) 中央研修修了者による研修会の実施

ア 指導者養成研修（英語教育推進リーダー連絡協議会）

対象者

英語教育推進リーダー

実施回数

1回

主な実施内容

少人数グループ研修の実施に向け、全国学力・学習状況調査（英語調査）の問題分析及び新学習指導要領を踏まえた授業改善のポイントについて協議し、少人数グループ研修用資料を作成する。

イ 少人数グループ研修

対象者

中学校英語科教員

実施回数

16グループ（1グループ20人）×2回（3年計画）

主な実施内容

- 1回目：新学習指導要領や全国学力・学習状況調査（英語調査）から、英語科における授業改善のポイントを整理し、それを踏まえた実践研修
- 2回目：授業実践に関する協議（模擬授業）

ウ 中央研修修了者による研修

対象者

- ・中央研修修了者の勤務校のある各地域の小・中学校外国語及び英語担当教員
（H27～H31の5カ年計画で実施予定）

実施回数

1人 年間 14時間程度

主な実施内容

- ・4技能（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）に係る言語活動についてマイクロ・ティーチングを実施

(3) 外部検定試験の活用

ア 英語外部検定試験活用研修

趣 旨

高大接続改革の一環として、2020年度から英語外部検定試験が大学入学者選抜に新たに導入されることに対応するため、2018年度から2020年度までの3年間で、県立高等学校の全ての英語教員を対象として、特に「話すこと」及び「書くこと」の適切な指導法や評価方法に関して、外部検定試験を活用した研修を実施する。

対 象 者

県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）で英語を担当する全ての主幹教諭・教諭及び任用期間を付さない常勤講師

実施内容

- ・外部検定試験（英検、GTEC等）の特徴、スピーキング、ライティングの評価基準についての講義・演習
- ・新しい出題傾向に対応した指導法についての協議
- ・学校でのパフォーマンステストの実施と評価の在り方についての協議

イ 教員の外部検定試験の受験

趣 旨

英語担当教員の英語力強化に向けて教員が自己の英語力を客観的に把握できるよう、平成31年度に限り、国が英語教員に必要とする英語力の目安として掲げるCEFR B2レベル相当以上を取得していない教員を対象に、外部検定試験の団体受験を実施する。

対象者

県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）で英語を担当する主幹教諭・教諭及び任用期間を付さない常勤講師のうち、上記のレベルを取得していない教員

実施回数 2回

（４）外国語指導助手を対象とした研修の実施

趣 旨

小・中・高等学校等において語学指導等に従事する外国語指導助手（ALT）に対し、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、もって外国語教育の充実に資する。

対象者

- ・「兵庫オリエンテーション」 新規来日 ALT
- ・「外国語指導助手の指導力等向上研修」 ALT 約 200 名
日本人英語教員 約 200 名

実施回数

- ・「兵庫オリエンテーション」 2日間
- ・「外国語指導助手の指導力等向上研修」 2日間

主な実施内容

- ・効果的なティーム・ティーチングの在り方と実践について
- ・小学校・中学校・高等学校等における外国語教育をめぐる諸問題について

2 各研修の評価

（１）研修会等への参加人数

上記（１）～（３）の各研修受講者の目標数を設定する。

英語教育改善プラン推進事業

研修協力校（６校）が実施する公開授業、域内研修会等に参加した教員数

- ・小学校外国語担当教員 360名（県内６研修協力校×30名×2回）
- ・中学校英語担当教員 120名（県内６研修協力校×10名×2回）

中央研修修了者による研修会の実施

ア 英語教育推進リーダー連絡協議会

- ・英語教育推進リーダー26名（平成26年～平成30年の中央研修終了者）

イ 少人数グループ研修

- ・中学校英語担当教員 約900名（年間300名×3年間）

ウ 中央研修修了者による研修

（高等学校）

H27～H29の3年間で全県立高等学校英語教員約1,200名が受講

（小・中学校）

各市町において、域内研修会を実施（1回以上）

（２）研修参加者へのアンケートの実施

上記2-イの研修受講者に研修前と研修後にアンケートを実施し、研修受講者による授業改

善の効果を検証する。

(アンケート調査項目例)

- ・生徒の英語による言語活動時間の割合
- ・教員の英語使用状況

(3) 授業改善の状況の把握及び検証

国が実施する「英語教育実施状況調査」を活用し、研修受講者勤務校における英語授業の改善状況を検証する。

(4) 年間事業計画

月	小・中学校		高等学校	
	兵庫県の取組	外部専門機関等	兵庫県の取組	外部専門機関等
4月				
5月	英語教育改善プラン推進事業連絡協議会	県内の大学		
6月	英語教育推進リーダー連絡協議会	県内の大学		
7月			外部検定試験活用研修(1日)	英語教育関連企業
8月	少人数G研修		・外部検定試験活用研修(5日) ・新規来日ALT対象研修会(2日) ・グローバルリーダー育成事業(2泊3日)	英語教育関連企業
9月	研修協力校による公開授業	県内の大学		
10月	英語教育改善プラン推進事業連絡協議会	県内の大学	・外部検定試験活用研修(1日) ・兵庫県高校生エッセイコンテスト	英語教育関連企業
11月	少人数G研修		・外国語指導助手の指導力等向上研修(2日) ・兵庫県高校生スピーチコンテスト	英語教育関連企業
12月	研修協力校による公開授業	県内の大学		
1月				
2月	英語教育改善プラン推進事業連絡協議会	県内の大学	兵庫県高校生ディベートコンテスト	
3月				

